

事業名 ～楽しく世代交流～コミュニティ広場「遊ゆう」



- 1 実施団体 特定非営利活動法人青梅こども未来
- 2 担当課 子ども家庭支援課
- 3 実施時期 平成 25 年 5 月～平成 26 年 2 月
- 4 参加者 地域住民 274 名 ボランティアスタッフ 46 名
- 5 実施場所 市民センター（梅郷・河辺・長淵・今井）
- 6 事業の目的 市施設を利用し、高齢者や子供たちのふれあいが出来る居場所づくり。
- 7 役割分担
 - ・ 団体の役割 ①会場準備 ②広報活動 ③遊びワークのアナログゲームとおもちゃ準備 ④講師依頼
 - ・ 担当課の役割 ①広報掲載や学校・幼稚園・保育園・地域自治会
 - ・ 子供会等に周知 ②会場予約 ③遊びボランティアの募集

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

地域の高齢者で社会貢献したい方々にボランティアスタッフとして参加し、参加者とボードゲームのルールを伝え、共にゲームを楽しみながら『世代間交流』の場となっていた。ルールを伝え一緒に楽しむ事で、心に潤いをもたらし、達成感を得られた。子ども達も日頃接することが少ない年代の方々と関わる中で、新たな人間関係を得られた。

9 目標達成

事業の目標：子どもから高齢者まで多世代にわたって、各回 10 名~20 名ほどの参加者が遊び交流出来る環境で一緒に遊ぶ事により、世代間交流が育まれ豊かな人間関係を生み出す。

目標の達成具合：ボランティアスタッフに 70 代の方が多く、幼児や小学生、乳幼児連れの若い家族と楽しく交流出来ていた。

10 事業の実施内容

アナログゲームを介して異世代交流。広場開催にあたり、前期後期開催前に各 1 回ボランティアスタッフ養成講座を実施(31 名の参加)。4 カ所の市民センターで交流広場を 15 回開催した。延べ人数としてボランティアスタッフ 46 名、参加者 274 名となった。ボランティアスタッフは高校生から 70 代の方々、広場参加者は 0 歳から 70 代の方々幅広い年代が参加し異世代交流なされていた。

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話し合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	3	3
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
(3)協働の役割分担は適切だった	3	3
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	3	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4
(8)設定した目標が達成された	4	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

0歳から100歳の異世代交流を目標として提案した企画であったが養成講座を受講したボランティアの方を含めてほとんどの会場で異世代交流は行われていた。

「家族で楽しめる遊びの世界だった」と参加者から感想もいただいた。しかし、会場によってはかなり参加数が少ない所もあった。

開催の周知が出来ていないことが、参加者が少ない原因と思われる。

また、4か所の市内センターで行ったが、参加者周知のために、年間を通じて1か所で定着できるようにとの意見もあった。

「遊ゆうを行っている時間にそのセンターに行っても何をしているか分からず入りにくかった」という意見もあった。

会場入り口、センター出入り口に看板、パネル等を掲示したが、センター内での自由に参加できる開催行事としての認識に至らず、『事前の周知』の必要性を感じた。それと共に、誰もが入場しやすい会場づくりも必要であることも同様に必要であった。

開催に際しての、チラシ等の広報活動は行ってきたが、市民への周知には至らなかった。この点に関しては、協働としての行政と共に再考していくべき課題と考える。

13 その他